



校訓『誠健勤和』



樹人

富良野西中学校

《学校だより》

令和2年5月27日

5月号

学びを止めず 心が近づく学校

校長 大場 八 仁

5月は肌寒い日が多かったような気がしていましたが、ふと、校庭に目を向けると、ライラックが立派に紫色の花を付け、初夏の到来を告げてくれています。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、4月18日から続いた臨時休業も終わりを迎えようとしています。この2週間は分散登校を行い、学習の機会を何とかつくることができました。けれども、1つの学級を二分しながらの授業のほか、密にならない生活に細心の注意を払うなど、生徒にとっては制限が多く我慢の数日だったと思います。それでも、仲間に会えた嬉しさは、挨拶の声やマスク越しの笑顔で知ることができました。

6月1日からは通常の学校生活が始まります。しかし、通常とはいっても感染防止の対策を講じた上での生活のため、マスク着用や検温・手洗い・消毒のほか、「3密」を避け、ソーシャルディスタンスに配慮するなど、まだまだ我慢の毎日となることでしょう。それでも、分散登校時と違い、他の学級の友達や他学年の仲間と同じ時間を、同じ場所で共有し、互いを意識し生活できることは、中学生にとって大切な成長につながると考えています。



学校再開へのお願い

保護者の皆様の中には、お子さんの学校での生活に、感染への不安を多いに抱いている方もおられると思います。確かに、学校での生活は多くの人と接する機会となりますので、家庭での生活から考えると感染のリスクは非常に大きくなると言えるでしょう。しかし、国の専門家会議での提言を受けた文部科学省が、「感染症対策を徹底しても、感染リスクはゼロにすることはできないという事実の前提に立ち、感染及びその拡大を可能な限り低減しつつ、教育活動を継続し、子供の健やかな学びを保障していくことが必要です。」（学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル 5/22）と述べている通り、学校での教育活動の停止によって子どもの学びや成長を止めないようにするため、できる限りのことを学校や家庭で行うことが重要であると私は考えています。

青年初期の中学生の時期は、発達段階から、自らの生き方を模索し始める時期であるとともに、大人との関係よりも、友人関係に自らへの強い意味を見いだすことが多く、同年代の仲間や友達との関わり・ふれあいで大きく成長する時期であると言われています。ですので、学校では、同年代の生徒同士が一緒に学び、話し合い、笑い、高めあえる、そんな関わり・ふれあう時間を、感染リスクの低減を図った生活の中で創っていきます。そして、教職員が一つになって、子どもの学びや成長を支えていきます。また、子ども達がコロナウイルスを正しく理解し正しく恐れながら、「心が通い・心がふれあう」、そして、互いの身体的距離は離れていても「心が近づく」教育活動を行っていきたいと考えています。そのためには、保護者の皆様の学校へのご理解が重要となります。どうか、社会全体が長期間にわたり、この感染症とともに生きていくために、学校と家庭での「新しい生活様式」の実践など、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



富良野市立富良野西中学校ZERO運動『いじめZERO基本方針』

いじめは、どの学校にも、どの学級にも、どの生徒にも起こり得ます。いじめは、いじめを受けた生徒がその心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命または身体に重大な危険を生じさせる恐れがあるという認識に立ち、本校の生徒が、楽しく豊かな学校生活を送ることのできる、いじめのない、いじめを決して許さない学校をつくるために、「富良野市立富良野西中学校『いじめZERO基本方針』」を策定しています。その概要を掲載いたします。



◎「いじめ」を未然に防止します。～そのために
日常的に学級や集団の中で「いじめ」の問題について触れるなど、すべての子どもに対して継続的な働きかけを行います。
＜校長・教頭は＞

○全校集会などで、校長が日常的に「いじめ」の問題について触れ、「いじめは人間として絶対に許されない」との雰囲気や学校全体に醸成します。
○学校の教育活動全体を通じた道徳教育や人権教育の充実、読書活動、体験的活動などの推進等に計画的に取り組みます。
○生徒が自己有用感を得られる場面や困難な状況を乗り越えられるような体験の機会を積極的に設けるよう教職員に働きかけます。
○「いじめ」の問題に生徒自らが主体的に参加する取組を推進します。（例、生徒会による「いじめZERO運動」や相談箱の設置など）
＜生徒指導担当教員は＞

○いじめの問題について校内研修や職員会議で積極的に取り上げ、教職員間の共通理解を図ります。
○日頃から関係機関等を定期的に訪問し、情報交換や連携に取り組みます。

＜養護教諭は＞

○学校保健委員会等、学校の教育活動の様々な場面で命の大切さを取り上げます。

＜学級担任は＞

○日常的に「いじめ」の問題について触れ、「いじめは人間として絶対に許されない」との雰囲気や学級全体に醸成します。
○はやし立てたり、見て見ぬふりをしたりする行為も「いじめ」を肯定していることを理解させ、「いじめ」の傍観者から「いじめ」を抑止する仲介者への転換を促します。
○一人一人を大切にしたい分かりやすい授業づくりを進めます。
○教職員の不適切な言動が生徒を傷つけたり、他の生徒による「いじめ」を助長したりしないように、指導の在り方には細心の注意を払います。

◎「いじめ」を早期に発見します。～そのために
定期的な調査や、ささいな兆候（ふざけに見えるような“気になる行為”）等にもアンテナを高く保つようにします。

＜校長・教頭は＞

○生徒及びその保護者、教職員が「いじめ」に関する相談を行うことができる体制を整備します。
○学校における教育相談が、生徒の悩みを積極的に受け止められる体制となり、適切に機能しているか、定期的に点検します。

＜生徒指導担当教員は＞

○定期的なアンケート調査や教育相談の実施等に計画的に取り組みます。
○保健室やスクールカウンセラー等による教育相談の利用、電話相談窓口について生徒や保護者に周知します。
○休み時間や昼休みの校内巡視や、放課後の校区内巡回等において、子どもが生活する場の異常の有無を確認します。

＜養護教諭は＞

○保健室を利用する生徒との雑談の中などで、その様子に目に配るとともに、いつもと何か違うと感じたときは、その機会を捉え悩みを聞くようにします。

＜学級担任は＞

○日頃からの生徒の見守りや信頼関係の構築に努め、生徒が示す小さな変化や危険信号を見逃さないようアンテナを高く保ちます。
○休み時間・放課後の生徒との雑談や日記等を活用し、交友関係や悩みを把握します。
○個人面談や家庭訪問の機会を活用し、教育相談を行います。

※「いじめ」かな？と疑われる情報があれば、学校におかれた「いじめZERO対策委員会」へ伝えて組織的に対応していきます。

◎校内体制について 「いじめZERO対策委員会」

（1）構成

校長 教頭 生徒指導部長 教務主任 特別支援コーディネーター 学年主任 養護教諭
外部専門家（スクールカウンセラー等）＜教育委員会 学校教育課 子ども未来課（富良野警察署）＞

（2）業務内容

本校における「いじめ」の未然防止、早期発見、早期解決等、「いじめ」問題の防止や対応に向けた取組
・ 学校基本方針に基づく取組の実施や具体的な年間計画の作成・実施・検証・改善などの中核としての役割
・ 「いじめ」の相談・通報の窓口としての役割
・ 「いじめ」の疑いに関わる情報や生徒の問題行動に関わる情報の収集と記録、保管を行う役割
・ 「いじめ」に関係する生徒への事実関係の聴取、指導や支援の体制・対応方針の決定と保護者・関係機関との連携といった対応を組織的に実施するための中核としての役割



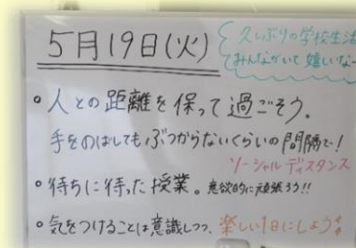
5月の西中

ZERO 運動月別目標
「決まりを守って
気持ちよく生活しよう」

月別 保健目標
「自分のからだを知ろう！」

一段階的な分散登校実施～授業も再開～

5月18日(月)～29日(金)、段階的な分散登校が実施され、この間、3年生は5回、1、2年生は3回登校し授業を受けました。いずれも1クラスを2つのグループに分け、「3密」を避けた環境での授業再開でした。また、感染リスクをできる限り減らした上で給食も再開しました。ソーシャルディスタンスを保ちながらも友達と過ごす学校生活に、子ども達の笑顔が見られました。子ども達がいるだけで学校に活気が戻ります。



差別・偏見のない関係づくりのために～学活の時間より～

5月22日(金)～26日(火)の間に、各学級の学活の時間を活用して「新型コロナウイルス感染症について理解を深める」ため、体育館で授業を行いました。この授業の指導案は、生徒指導部や養護教諭が中心となって作成し、全教職員の共通理解のもと、全学年同一の指導内容で授業を実施しました。授業の目的は、①感染症の予防について、②自分自身に感染症の疑いが出たときの対応について、③感染症への恐怖・不安に振り回されないこと、そして、④差別・偏見・嫌悪を防ぐことです。どの学年の生徒も先生方の話を真剣に聞き、その後、学習した内容を、しっかりとワークシートにまとめ、これからの生活について考えていました。



少年の主張大会 ～4名の代表生徒の主張がラジオで放送～

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年、文化会館で実施している「少年の主張」大会について、今年度は、事前に学校で収録した音声をラジオで放送する「ラジオ版 少年の主張」を開催することになりました。西中からの参加者は、下記の4名です。放送日については、「富良野市広報 6月お知らせ版(6月16日発行)」に掲載されますので、ご覧ください。

菅原 史星 さん(3年2組)「『普通』って何だろう」
内山 亮 さん(2年1組)「不便を忘れた世の中」

田代あかり さん(3年2組)「学校に行く理由」
福土花穂良 さん(2年2組)「後悔と向き合う」



◎ワズヘアー(白木 靖宏 様)より、学校の消毒用に「次亜塩素酸水」を寄贈していただきました。ありがとうございました。

Thank you



ICT環境アンケートへのご協力、ありがとうございました

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4、5月は臨時休業が多く、そのため学校から出されたプリントを家庭で取り組む日が増えました。そこで、生徒の学習環境を把握するため、各家庭のご協力をいただき、「ICT(情報通信技術)環境アンケート」を実施しました。結果は下記の通りです。

これからは、「個別最適化された学び」実現のため、一層、教育のICT化が推進されます。学校でもこの結果を受けて、子ども達のために何ができるか検討していきたいと考えています。

ご家庭でのICT(情報通信技術)環境アンケート結果 (5月22日現在)
P戸数214戸 生徒数231名 回答していただいた人数222名

- 富良野西中学校からのまち comi メールは届いていますか
ア はい 216 イ いいえ 6
- ご家庭にFAXはありますか。
ア ある 90 イ ない 132
- ご家庭で、お子様が使用できるインターネット環境はありますか。
ア 常時ある 176 イ 保護者と一緒のときはある 46 ウ ない 5
- (3)で「ア」、または「イ」と回答された方にお聞きします。
① お子様がインターネットに接続できる端末はどれですか。(複数選択可)
ア スマートフォン 134 イ 携帯電話(ガラケー) 2
ウ タブレット 118 エ パソコン 86
オ その他(iPod touch 9 スイッチ 8 DS 2 アレクサ 1
保護者のスマホ 1 チャレンジパッド 1 プレステ等のゲーム機 7)
② ①で選択した端末は、定められたデータ容量を超過して通信した際に、通信速度制限や追加の通信料が生じますか。
ア 生じる 79 イ 生じない 138
③ ①の端末に、アプリのインストールを行うことはできますか。
ア できる 206 イ できない 11
④ ①の端末に、カメラはありますか。
ア ある 203 イ ない 12
⑤ ダウンロードしたファイルを印刷することができるプリンターはありますか。
ア ある 136 イ ない 81
⑥ オンライン授業を実施した場合、利用を希望しますか。
ア 希望する 211 イ 希望しない 9
⑦ 「イ しない」と回答した方は、その理由をお書きください。



- ・速度制限等でスムーズに授業を受けられるかが不安である。
- ・日曜日とか保護者の仕事が終わってからじゃないとネット環境にならないので難しい。
- ・集中力が続かない。
- ・スマートフォンの画面を長時間見ることは、よくないと思う。
- ・オンライン授業時に保護者は勤務中である。子どもにスマートフォンを持たせていないため、授業を受けられない。タブレットの貸し出し等、考慮していただきたい。
- ・保護者のいない時間に机に向かえるかが心配である。また、ネットの接続等、ちゃんと準備してあげることができる自信がない。
- ・特に希望はしないが、必要があれば行う。(オンライン授業では、自分の子どもに付けたい力を伸ばすことはできないと思う)。
- ・生徒本人が、あまりやりたくないと言っている。
- ・オンライン授業とはどのように行うのかもはっきりわからないし、自宅にスマートフォンしかないのでは、できるかどうか等も心配である。



2 (火) 教育相談(～8日)
16 (火) 職員会議
17 (水) 常任委員会
18 (木) 全校集会
尿検査
24 (水) 校内研修
学年会議

※内科健診について、富良野医師会では、暖かい時期(6、7月)での実施を検討しているとのこと。日程が決まりましたらご連絡いたします。

※6月1日以降の学校再開に向けて、別紙にてお知らせしています。(学校HPにも掲載中)

富良野西中では
ホームページを
随時更新!
どうぞ、ご覧
ください。